

「ありふれた恋」

田中悦子

【あらすじ】

失ったものは、なんだろう

私はただ“ありふれた恋”をしていた

小野寺のどか。28歳。マッチングアプリのプロフィールには「子供はいらない」と登録した。数年前、のどかは病を患い、その後遺症で妊娠が難しいと診断されていた。そしてある男性と食事をすることに。しかし、待ち合わせ場所で声をかけてきたのは坂口奈美（25）だった。奈美の勘違いだったことが分かり、互いの待ち合わせ相手と合流。そして夜の街へ。

マッチングした男性も子供を望んでいない。条件が合う相手のはずだったが、気持ちが進まない。不可能だと分かっているにもかかわらず、まだ子供を諦められずにいる自分がいた。そして男性からホテルに誘われる。店先で戸惑っていると、ホテルから奈美が出てくる。一緒にいたのは女性だった。男性からしつこく誘われ

ていたところを、奈美に助けられる。

子供が望めない現実、男性への猜疑心に疲弊していたのどかは、お札として食事に誘った奈美の人柄に惹かれていく。奈美は同性愛者であり、のどかに好意を寄せていた。のどかは奈美と付き合うことに。

奈美から愛され、徐々に傷を癒していくのどかだったが……症状が安定し、妊娠が可能だと診断される。一方奈美は、のどかが子供を望んでいたことを知り関係を断ち切ろうとする。両親にも自身のマイノリティを打ち明けていない奈美にとって、子供を持つ人生など考えになかった。「何かを選ぶためには何かを捨てなければならぬ」という自身の生き方をのどかにも求める。のどかは奈美との人生を選ぶのか、別の人生を選ぶのか、それとも……そして、二人が最後に「選んだ」選択とは。

【人物関係表】

小野寺のどか (2 8) 保育士

坂口奈美 (2 5) プロボクサー

岸本萌子 (3 3) プロボクサー

竹内 (3 2) のどかのマツチング相手

ユキ (2 3) 奈美のマツチング相手

大和 (3 2) のどかの元恋人

医師 (4 6) のどかの主治医

園長 (4 3) 保育園・園長

会長 (5 6) ボクシングジム・会長

職員

奈美の母 (声)

奈美の父 (声)

のどかの母 (声)

のどかの息子 (2)

のどかの夫 (3 4)

○小野寺家・のどかの部屋（夜）

「ピコン」という効果音。マッチング
アプリがダウンロードされる。

小野寺のどか（28）、アプリを開いて。
会員登録に進む。

Q あなたに当てはまるものは？

（男性）（女性）（その他）

のどか “女性” を選択する。

Q あなたのお相手は？

（男性）（女性）（その他）

のどか “男性” を選択する。

所在地や生年月日などを入力していく。

Q 子供は欲しいですか？

（ぜったい欲しい）（いつか欲しい）

（欲しくない）

のどか、その手を止める。

のどか 「（画面を見つめ） ……」

“いつか欲しい” に指を伸ばすが。

“欲しくない” を選択する。

のどか 「 ……」

○新宿・「ドン・キホーテ」・表（夜）

のどか、立っている。

行き交う通行人。

待ち合わせをする人々。

のどか、ふと夜空を見上げる。

ポツンと月が浮かんでいる。

のどか「（見つめ）……………」

奈美「あの」

のどか、声の方向へ顔を向けると。

坂口奈美（25）が立っている。

奈美「ユキさん、ですか？」

のどか「……………え？」

奈美「……………」

のどか「……………違います（けど）」

奈美「すみません、間違えました」

するとスマホの受信音が鳴って。

のどか、マッチングアプリを開いて、

辺りを見渡すと。

スリッ姿の竹内（32）と目が合う。

竹内、歩いてくる。

竹内「小野寺さん？」

のどか「あ……はい」

竹内「店予約してるから」

のどか「え？ あ、はい」

のどか、竹内と歩いていく。

奈美「（のどかを見つめ）……」

ユキ「もしかしてナミさん？」

奈美、声の方向へ顔を向けると。

ユキ（23）が立っている。

奈美「ユキ、さん？」

ユキ「やっぱ！？ なんかピンときちゃっ

た。ってかチョー格好いいじゃん！」

奈美「……（曖昧に笑って）」

○イタリアンバル（夜）

のどかと竹内、食事をしている。

竹内「聞いてもいい？」

のどか「……なんですか？」

竹内「小野寺さんのプロフィール見て、ず

っと気になってたことがあるんだけど」

のどか「……」

竹内「何で保育士になろうと思ったの？」

のどか「……え？」

竹内、のどかを見つめている。

のどか「(戸惑い)……」

竹内「子供、好きなんだよね？」

のどか「……」

竹内「でも欲しくはない」

のどか「……」

竹内「(笑って)いや、あとになって〃やっ

ぱり〃とか、お互いのために良くないじゃ

ん？」

のどか「私は」

竹内「……」

のどか「(明るく)できないんです、子供が。

少し前に病気してて、その後遺症で」

竹内「……病気って？」

のどか「脳に腫瘍ができて……あ、でも手術

したんで。もう大丈夫なんですけど」

竹内「……大変だったね」

のどか「……」

竹内「でも、問題ないってことだよね」

のどか「……え？」

竹内「俺たち」

のどか「……」

竹内「これ、飲んだら出よっか？」

のどか「……あ、はい」

○ビアンバー（夜）

奈美とユキ、カウンターに座っている。

ユキ「ねえっ、腕とか触っていい？」

奈美「……うん」

ユキ、奈美の二の腕に触って、

ユキ「スゴ！ やっぱプロだね！」

奈美「（苦笑して）……」

ユキ「プロフィールに書いてなかったけど

ナミってなに？」

奈美「……なにって？」

ユキ「ユキはフェムネコ」

奈美「……」

ユキ「ポイタチでしょ？」

奈美「……いや」

ユキ「じゃあボイネコ？ あ、リバだ！」

奈美「分かんない」

ユキ「(笑って) え、なんで？」

奈美「……」

ユキ「もしかして、したことないの？」

奈美「……(小さく頷く)」

ユキ「試してみる？」

奈美「……え？」

ユキ「知りたくない？ 自分のこと」

奈美「……」

○イタリアンバル・表(夜)

のどか「竹内、店から出てきて、」

のどか「あの、ご馳走さまでした」

竹内「明日は仕事？」

のどか「あ、いえ」

竹内「もう一軒行こうよ」

のどか「(え？ となり) ……」

○ 繁華街（夜）

のどかと竹内、歩いている。

竹内「ここでいいよね？」

のどか、立ち止まる。

目の前にはラブホテルがある。

のどか「（ポカんと）……………」

ユキの声「ねえ！ 待ってってば！」

奈美とユキ、ホテルから出てくる。

のどか「（奈美を見て）……………」

ユキ、奈美を引き止めて、

ユキ「マジで帰んの？」

奈美「……………」

ユキ「最悪なんだけど」

ユキ、歩いていく。

のどか「……………」

竹内「小野寺さん？」

のどか「（ハツとなり）あの……………すみません、

今日は」

竹内「（笑って）えなんで？」

のどか「……………」

竹内「だって小野寺さん可愛いんだもん」

のどか「(訳が分からず) ……いや、あの本当
に」

竹内、のどかの肩を抱いて、

竹内「じゃあ中で飲も？ 明日休みなんで
しょ？」

のどか「あの本当にすみま(せ)」

突如、竹内の腕が捕らえれて、

のどか「(顔を上げると)」

奈美、その腕を掴んでいる。

奈美「イヤなら帰れば？」

のどか「…」

のどか、咄嗟に立ち去ろうとすると、

竹内「んだよブズ、生でヤレんだろ？」

のどか「…」

竹内「離せって！」

と、奈美の手を振り払うと。

奈美、咄嗟にその腕をかわして。

竹内の腹部に拳を入れる。

「ゴホッ」と崩れ落ちる竹内。

のどか「（目を見開き）……」

奈美「（ボソツと）やば」

のどか「（苦しそうな竹内を見つめ）……」

奈美「行きなっつて」

のどか「……」

のどか、竹内を蹴り上げて、

奈美「！」

のどか「（声を震わせ）あっ……あんたみたい

な男……死ねばいい！」

のどか、奈美の腕を掴んで、

のどか「走ろ！」

○街中（夜）

のどか、奈美の手を引いて走って。

奈美「（のどかを見つめ）……」

奈美、スピードを上げる。

のどかの手を引いて走って、

のどか「（奈美を見つめ）」

○駅前（夜）

のどか、立ち止まって。

息を切らしてへたり込む。

奈美「（息を切らし）大丈夫？」

のどか「なんか……（笑って）疲れた」

奈美「……」

のどか、ふと夜空を見上げる。

ポツンと月が浮かんでいる。

奈美、しゃがみ込んで、

奈美「また見てる」

のどか「え？」

奈美「待ち合わせのときも」

のどか「……（笑って）ああ」

奈美「……」

のどか「何やってるのかなあって、思っ

わたし」

奈美「……」

酔っ払いのサラリーマンや学生。

2人の前を通り過ぎていく。

のどかと奈美、月を見上げている。

○保育園・外観（日替わり）

園児たち、広場で遊んでいる。

○同・職員室

のどか、事務作業をしている。

園長「小野寺先生」

園長（43）、歩いてくる。

園長「ちよつと相談があるんだけど」

のどか「はい」

園長「大山先生が体調を崩して、明日から

入院することになったのね」

のどか「え？」

園長「それで申し訳ないんだけど、小野寺

先生にはひよこ組を担当してもらいたいの。

お願いできるかな？」

のどか「……」

○同・ひよこ組・表

赤ん坊の泣き声が聞こえる。

のどか、ドアの前で立ち止まる。

のどか「……」

職員「小野寺さん！」

おむつを抱えた職員が歩いてくる。

職員「よろしくお願いします！ えっと……」

……初めてでしたっけ？」

のどか「いえ……復帰するまでは、ここで」

職員「マジすか？ チョー助かります！」

のどか「(笑って)……」

○同・同・内

のどか、乳児のおむつを替えている。

乳児に指をキュッと掴まれる。

のどか「(見つめ)……」

のどか、その指をパッと振り払って。

黙々と仕事を続けている。

○電車・車内(夜)

のどか、ぼんやりと座っている。

のどか「……」

スマホを手に、LINEを開いて。

トーク履歴をスクロールしていく。
とあるアカウントを選択する。
相手のアイコンをタップすると。
大和（32）が、笑顔で赤ん坊を抱いている写真が表示される。

のどか「（見つめ）……………」

○（回想）カフェ（2年前）

のどかと大和、座っている。

のどか「（笑って）そんな顔しないでよ」

大和「…………別れるって」

のどか「ごめんね」

大和「……………」

のどか「私は大丈夫だから」

大和「俺はいいよ」

のどか「…………え？」

大和「子供とか…………そんな欲しくないし」

のどか「でも（さ）」

大和「仕方ないだろ」

のどか「……………」

大和「（明るく）やめよ、この話」

のどか「ごめんね、私のせいで」

大和「だから……そういうのやめろって」

のどか「元気でね」

大和「……」

○新宿・「ドン・キホーテ」・表（夜）

のどか、歩いてくる。

辺りを見渡すと。

人混みの中、奈美が立っている。

奈美、月を見上げている。

のどか「……」

○街中（夜）

のどかと奈美、歩いている。

のどか「なに、食べたいですか？」

奈美「……なんでも」

のどか「ご馳走するんで」

奈美「そんなに食べないから」

のどか「……あのお」

奈美「……」

のどか「もしかして、迷惑でしたか？」

奈美「え？」

のどか「なんか無理（に）」

奈美「いやゴメンちがう」

のどか「……」

奈美「嬉しかった……誘ってくれて」

のどか「……」

○居酒屋（夜）

のどかと奈美、カウンターにいる。

奈美、モリモリと料理を食べている。

のどか「ボクシング？」

奈美「うん」

のどか「スゴ……あっ！ だからあんなに強
かったんだ」

奈美「あれはミスった」

のどか「なにが？」

奈美「一応プロだから、素人相手に」

のどか「……そっか」

奈美「うん」

のどか「ごめん」

奈美「……なにが？」

のどか「私のせいで、ごめん」

奈美「……」

奈美、メニューを手に取って、

奈美「じゃあ、もう一杯飲んでいい？」

のどか「あうん、もちろん」

奈美「本当に思ってる？」

のどか「え？」

奈美「本当に、自分が悪いって思ってる？」

のどか「……」

奈美「（のどかを見つめ）」

のどか「（戸惑いながら）……思ってる」

奈美「……」

のどか「（ポツリと）ない」

奈美「なんて？」

のどか「思っていない」

奈美「（笑って）」

のどか「あ、いや」

奈 美 「よかった」

のどか 「……」

○ 駅前（夜）

のどかと奈美、歩いている。

のどか、ふと夜空を見上げる。

ポツンと月が浮かんでいる。

のどか 「（見上げて）……」

奈 美 「（のどかを見つめ）」

のどか 「キレイ」

奈 美 「……」

のどか 「じゃあ、ここで」

奈 美 「また会える？」

のどか 「……」

奈 美 「（笑って）気が向いたら」

のどか 「いつでも」

奈 美 「……」

のどか 「（笑って）あの、気が向いたら」

奈 美 「……うん」

のどか 「うん」

○小野寺家・のどかの部屋（夜）

のどか、スマホを見つめている。

ノックの音が聞こえる。

母（オフ）「のどかー？ お風呂は？」

のどか「……」

スマホには奈美の宣材写真や試合カッ

トなどが表示されている。

のどか「（見つめ）……」

○アミューズメント施設・ボーリング場（翌週）

のどか、ボールを投げると。

ストライク！

ベンチにいる奈美、目を見開いている。

のどか「イエーいっ」

のどか、奈美にハイタッチする。

奈美「（笑って）意外すぎるんだけど」

のどか「頑張った！」

奈美「やりづらいなー」

奈美、立ち上がる。

ボールを投げると。

ストライク！

のどか「(唾然と) ……」

奈美、のどかに「べー」と舌を出す。

のどか「(笑ってしまう)」

○同・ゲームセンター

のどか、UFOキャッチャーをしている。
る。

クマのぬいぐるみが、取れない。

のどか「(ムツとして) ……」

奈美「ムリだって」

のどか、コインを入れる。

クマのぬいぐるみが、取れない。

奈美「諦めな」

のどか「やだ」

奈美「いくら使ったと思ってんの」

のどか「うん。でもだから」

奈美「え？」

のどか「お金かければ手に入る」

奈美「……」

奈美、コインを入れる。

コントローラーを操作する。

のどか「(見て)……」

奈美「ムリだと思うよ？」

のどかと奈美、交互にプレイしていく。

奈美、いつしかマジになっている。

コントローラーを操作する。

クマのぬいぐるみが、取れた！

「キヤー!!」と叫ぶのどか。

周囲の視線が集まって、

奈美「ちよっ……恥ずかし(い)」

のどか「ほらね！ 取れたじゃん！」

のどか、クマのぬいぐるみを抱いて、

のどか「ありがとう」

奈美「……」

○アパート・奈美の部屋(夜)

のどかと奈美、鍋を囲んでいる。

奈美、出汁を飲んで、

奈美「……ウマいです」

のどか「切って入れただけだし」

奈美「でも、なんか美味しい」

のどか「（見つめ）……」

奈美「ん？」

のどか「いや……なんかいいね、ここ」

奈美「（笑って）どこが、ボロいし」

のどか「でも、なんか落ち着く」

奈美「……」

のどか「あのさ」

奈美「……なに？」

のどか「最初に会ったとき、誰を待ってたの？」

奈美「……ああ……友達」

のどか「……」

奈美「ネット友だったから顔分かんなくて」

のどか「ネット友？」

奈美「ネットで知り合った友達」

のどか「そっか……（笑って）なんか意外」

奈美「なにが？」

のどか「そういうの、ウトそう」

奈 美 「(笑って) 悪かったね」

のどか 「……」

奈 美 「そっちは？」

のどか 「え？」

奈 美 「婚活、続けてんの？」

のどか 「ああ……ううん」

奈 美 「……」

のどか 「なんかね、今はいいかなって」

奈 美 「なんで？」

のどか 「なんでだろ…… (笑って) 分かんない」

「

奈 美 「……」

× × ×

のどか、玄関で靴を履いている。

奈 美 「やっぱ駅まで」

のどか 「大丈夫だって」

のどか、ぬいぐるみを抱えて、

のどか 「じゃあ、また」

奈 美 「…… (笑って)」

のどか 「え？ なに？」

奈美「子供じゃん」

のどか「……年上なんだけど」

奈美「そうだった」

のどか「……」

奈美「あ、ごめ（ん）」

のどか「坂口さんが」

奈美「……」

のどか「（笑って）彼氏だったらいいのに」

奈美「……」

のどか、ドアを開けると。

奈美、咄嗟にその腕を掴んで。

そのままのどかにキスをする。

のどか「（目を見開き）……」

奈美「（ハツとなり）」

のどか「……」

奈美「……ごめん」

のどか「……」

奈美「ごめん」

のどか「……」

奈美「ごめん、本当（は）」

のどか「やっぱり」

奈美「……」

のどか「駅まで……一緒にいたいかも」

○神社（1か月後）

初詣の参拝客で賑わっている。

のどかと奈美、歩いている。

出店で食べたりおみくじを引いたり、

はしゃいでいる。

× × ×

のどか、拝殿で手を合わせている。

奈美「（のどかを見つめ）……」

奈美、手を合わせて深く目を閉じる。

× × ×

混み合う授与所。

のどか、お守りのサンプルを見ている。

『勝守』と印されたお守りを指して、

のどか「すみません、これください」

○バス・車内（夕）

のどかと奈美、座っている。

のどか「なにお祈りしたの？」

奈美「え？」

のどか「神社で」

奈美「……のどかは？」

のどか「奈美が試合で勝てますようにって」

奈美「……（笑って）うん、同じ」

のどか「はいこれ」

のどか、神紋入りの袋を渡して。

奈美、袋の中身を開ける。

のどか「あそこの神社、勝負事にご利益があるって有名な（ん）」

奈美の手には『安産御守』と印されたお守りがある。

のどか「……え、なんで？」

奈美「……」

のどか「ごめん！ これじゃなくて……どう

しよ……あっ、今度取り替えてもら（お）」

奈美、プツと吹き出して、

のどか「……」

奈 美 「(笑って) いいよ、なんでも」

のどか 「でも」

奈 美 「大切にする。ありがとう」

のどか 「……」

○スーパー「まるよし」・表(夕)

のどか と 奈美、店から出てくる。

奈美、両手に買い物袋を持っている。

のどか 「持つよ」

奈 美 「いいよ、大丈夫」

のどか 「いいから」

奈 美 「じゃあ……はい」

のどか、買い物袋を受け取って。

奈美の反対側に回る。

空いたその手と手をつないで。

奈 美 「……」

のどか 「ドンカンだな」

奈 美 「ごめん」

のどか 「……？」

奈 美 「人前では……ちよつと」

のどか「……」

のどか、パッと手を離して、

のどか「（明るく）そうだよね、ごめん。恥ず

かしいよね」

奈美「ごめん」

のどか「……」

○アパート・奈美の部屋（夜）

奈美、居間に座っている。

のどか、台所で料理をしている。

のどか「（奈美を気にして）……」

奈美「うちの父親さ」

のどか「……え？」

奈美「うちの父親……体育教師なんだ」

のどか「……」

奈美「小さいころから、野球、サッカー、

柔道……色々教えてくれた」

のどか「……うん」

奈美「体育とか部活の成績が良いとすごい褒めてくれて……そのころはもう、自分は

周りと違うって分かってたから」

のどか「……」

奈美「嬉しかった。認めてもらうことが」

のどか「……」

奈美「今も応援してくれて……だから、

それだけで十分かなって、思ってる。話す

必要ないって、思ってる」

のどか「……」

奈美「さつきは……ごめん」

のどか「……え？（笑って）いいよ、気にしてないから」

のどか、奈美の向いに座ると。

奈美、涙を浮かべている。

のどか「……」

奈美「そんな……周りなんて気にすること

ないって思うけど、でも……怖い」

のどか「……」

奈美「無理、しなくていいから」

のどか「……なにが？」

奈美「普通だったらできること……できな

い。してあげられない」

のどか「……」

奈美「だから……無理して、一緒にいってくれなくていいから。私は大丈夫だから」

のどか「……」

奈美「ごめん」

のどか「……」

奈美「ごめんね」

のどか「……」

奈美、顔を上げると。

のどか、涙を流している。

奈美「……のどか？」

のどか「へたくそ」

奈美「……」

のどか「本当に思ってる？」

奈美「……え？」

のどか「本当に、自分が悪いって思ってる？」

奈美「……」

のどか「奈美が言ってくれたんだよ？」

奈美「……」

のどか「私は……自分が悪いなんて思っ
てない。だから奈美も、奈美も同じじゃ
ないよ」

奈美「……」

のどか「一緒じゃなきゃ駄目なんだよ」

奈美「……」

奈美、のどかの涙に触れて、

のどか「……」

奈美、のどかにキスをする。

のどか、目を閉じる。

奈美、そのまま押し倒して、

のどか「（見上げて）……」

奈美「……いい？」

のどか「（頷いて）」

奈美「本当に？」

のどか「……本当ってなに？」

奈美「……」

のどか「見せてよ」

× × ×

朝日が差し込んでくる。

のどかと奈美、眠っている。
寄り添いながら手をつないでいる。

○保育園・ひよこ組（日替わり）

乳児が泣いている。

のどか、乳児を抱き上げて。

哺乳瓶でミルクを飲ませる。

乳児、クピクピとミルクを吸っている。

のどか「（笑って）……」

のどか、愛おしそうに乳児を抱いている。
る。

○ショッピングモール・アパレルショップ（翌週）

奈美「転職？」

のどかと奈美、歩いている。

のどか「うん」

奈美「なんで？」

のどか「女子ばっかの職場じゃん？ 面倒なこと多いんだよね」

奈美「え……じゃあ保育士は」

のどか「辞める」

奈美「……」

のどか「（服を手に）これ可愛くない？」

奈美「のどかはさ」

のどか「ん？」

奈美「……（明るく）それ、似合うと思う」

のどか「かな？ 試着してくる」

奈美「……」

○電車・車内

のどかと奈美、座っている。

奈美「なに観るの？」

のどか「なにが？」

奈美「映画」

のどか「あー決めてない。気分で」

奈美「なにそれ」

のどか「そういう気分なの」

電車が駅に到着する。

奈美、立ち上がった、

奈美「じゃあ気をつけて」

のどか「頑張ってるね」

奈美、電車を降りる。

のどか「(奈美を見つめ) ……」

○ボクシングジム(夕)

トレーニングをしている選手たち。

奈美、スピードボールを打っている。

汗を流すその顔は、真剣そのものだ。

会長(56)、リングに上がって、

会長「坂口！ スパarring始めんぞ！」

奈美「はい！」

○総合病院・待合室(夕)

のどか、マッチングアプリを開いてお

り「退会」を選択すると『会員登録が

キャンセルされました』と表示される。

のどか、フーツと息を吐いて。

奈美との写真を見返している。

のどか「…(ほほ笑んで)」

看護師「小野寺さん、小野寺のどかさん」

のどか、立ち上がる。

○ボクシングジム（夕）

奈美、リングから降りる。

ヘッドギアを外すと、

会長「次の試合出してやるから、絶対B級に上がれ？ 覚悟してやれよ」

奈美「え？ ……次って」

会長「岸本は引退だ」

奈美「……」

○総合病院・検査室（夕）

のどか、検査台に横たわっている。

MRIに入って、

のどか「（目を閉じる）」

○ボクシングジム・廊下（夕）

裏口へ走る奈美、ドアを開けると。

岸本萌子（33）、ベンチに座っている。

奈美に気が付き、顔を上げる。

その目は赤く充血している。

萌子「……（笑って）ヨッ」

奈美「萌さん」

× × ×

奈美と萌子、並んで座っている。

萌子「そっか……奈美が出ることになったんだ」

奈美「どうして急に」

萌子「……」

奈美「萌さん？」

萌子「奈美はさ……生理、きてるか？」

奈美「……え？ ……いえ」

萌子「そういうの当たり前じゃん？ この世界では」

奈美「……あの」

萌子「子供が欲しいんだよ」

奈美「……」

萌子「（笑って）そんなことさ、まさか自分がなんて、考えもしなかったけど……奈美

はまだ若いけどさ。でもここでの生活が当たり前だとは思わない方がいいぞ？ もしかしたら」

奈美「その程度だったんだ」

萌子「……」

奈美「……本当に欲しいものって、他のもの全部捨てる覚悟じゃないと手に入らないんじゃないですか？」

萌子「……」

奈美「萌さんにとってボクシングは、その程度のものだったんですよ」

○総合病院・診察室（夕）

ノックの音が聞こえる。

のどか（オフ）「失礼します」

のどか、部屋に入る。

医師（46）が座っている。

のどか「お久しぶりです」

医師「どう？ 調子は？」

のどか「はい！ 元気です」

医師「(笑って) うん」

のどか、椅子に座ると、

医師「今日は、とても良い知らせがある」

のどか「……」

× × ×

MRI画像が2枚、並んでいる。

医師、その片方を指して、

医師「これは半年前の検査結果。これが腫瘍だね？」

のどか「……はい」

医師、もう片方のMRI画像を指して、

医師「こっちはさっき撮ったもの。格段に

小さくなってる。血液検査の結果、ホルモ

ンも正常値に近づいてた」

のどか「……」

医師「最近、何か変わったことは？」

のどか「……いえ、特には」

医師「妊娠できるかもしれない」

のどか「……え？」

医師「絶対とは言えない。でもそれはどの

女性も同じで、その人たちと同じくらいの
可能性が持てると思う」

のどか「……」

○小野寺家・のどかの部屋（夜）

電気の消えた部屋。

スマホの着信が鳴っている。

のどか、ベッドに横たわっている。

スマホには『奈美』と表示がある。

のどか「……」

のどか、ぼうつと画面を見つめている。

○住宅街（夜）

奈美、歩いている。

スマホで電話をかけている。

呼び出し音が続いている。

奈美「……」

奈美、電話を切る。

ふと夜空を見上げる。

ぼんやりと半月が浮かんでいる。

○アパート・奈美の部屋（数日後）

奈美、ふと目を覚ますと。

のどか、テーブルの上を片付けている。

のどか「あ、起きた？」

奈美「……なんで？」

のどか「カギ開いてたよ？（酒の空き缶を手

に）珍しいね、昼間っから」

奈美「カゼ……もう大丈夫なの？」

のどか「うん」

奈美、のどかを抱きしめて。

のどか「……」

× × ×

のどかと奈美、ベッドに入っている。

奈美「ちよつとなにそれ！」

のどか「さつき撮った」

のどか、スマホを持っている。

奈美が半目で眠っている。

奈美「消してって！」

のどか「やだね」

奈美のスマホが鳴って、

のどか「送った」

奈美「いらんわ」

のどか「(笑って)」

奈美「……(笑って)」

するとのどかのスマホが鳴って。

転職サイトからの通知が届いている。

奈美「探してるんだ」

のどか「……ああ、うん」

奈美「なんか良いのあった？」

のどか「……」

奈美「のどか？」

のどか「なんか……(笑って)いざってなる

と、やっぱ悩んじゃって」

奈美「……」

のどか「この仕事しかしたことないし」

奈美「……そっか」

のどか「……」

奈美「(笑って)ゆっくり考えてみたら？

他の仕事だってさ、やってみないと分かん

ないし」

のどか「うん」

奈美「……」

奈美、のどかにキスをする。

その体を求めて、

のどか「……いいの？ 行かなくて」

奈美「今日は休む」

のどか「奈美ってさ」

奈美「なに？」

のどか「子供……欲しいって思ったこと、ある？」

奈美「……え？」

のどか「……」

奈美「（笑って）なんで？」

のどか「……」

奈美「どうしたの急に」

のどか「……うん」

奈美「ないよ」

のどか「……」

奈美「なんで……そんなこと聞くの？」
のどか「……」

奈美 「なんでそんなこと聞くの？」

のどか 「……ごめん」

奈美 「……」

のどか 「ごめんね」

奈美 「……」

のどか 「(笑って) ただちよつ(と)」

奈美 「本当に悪いと思ってる？」

のどか 「……」

奈美、ベッドから降りる。

身支度をしている。

のどか 「……奈美？」

奈美 「やっぱ行くわ」

のどか 「ちよつと待ってよ」

奈美 「欲しかったの？」

のどか 「……」

奈美 「子供……欲しかったの？」

のどか 「……」

奈美 「良いんじゃない？」

のどか 「……え？」

奈美 「良いんじゃない、別に」

奈美、部屋を出ていく。

のどか「奈美！」

玄関が閉まって、

のどか「……」

○ボクシングジム（夕）

誰もいないフロア。

奈美と萌子、リングに立っている。

2人だけでスパarringをしている。

萌子、奈美にストレートを入れると。

奈美、その場に崩れ落ちて、

奈美「（息を切らし）……」

○同・裏（夕）

奈美と萌子、ベンチに座っている。

萌子「ごめんな、付き合わしちゃって」

奈美「……ほんとに、今日で」

萌子「ダラダラいてもしょうがないし」

奈美「……」

萌子「あーっ！ これで腹いっぱいコメが

食えるわ」

奈美「すみませんでした」

萌子「……」

奈美「この前……あんなこと言って」

萌子「奈美が言ったこと、間違っていないから」

奈美「……」

萌子「本当に欲しいものは、他のもの捨てる覚悟じゃないと手に入らないって。あたしもそう思った。だから……ボクシングを捨てて、子供を選んだ」

奈美「……」

萌子「(笑って) 応援してる」

奈美「……」

○アパート・奈美の部屋（夜）

奈美、入ってくる。

のどか、台所に立っている。

のどか「おかえり」

奈美「……」

のどか「お腹空いた？　すぐできるから」

奈美「さっきの話なんだけど」

のどか「(笑って)とりあえずコレ作っちゃうから」

奈美「いいよ」

のどか「……え」

奈美「……」

のどか「(笑って)なにが？」

奈美「もう会うのやめよう？」

のどか「……なんで？」

奈美「なんでって」

のどか「やだよ」

奈美「……」

のどか「私は……奈美と一緒にいたい」

奈美「だって」

のどか「簡単じゃないって分かってる……でもそうやって、子供を授かって、一緒に育ててる人たちもいるんだって」

奈美「……なに、言ってるの？」

のどか「別れるとかやだよ。そんなこと思わ

ないですよ。このまま2人で、それで……それ
れでいつ（か）」

奈 美 「待って……ちょっと待ってよ」

のどか 「……」

奈 美 「どういふことか分かってる？」

のどか 「……」

奈 美 「（笑って）なんで？ そんな必要ない
じゃん、だつてのどかは」

のどか 「奈美がいいの」

奈 美 「……どうしたの？」

のどか 「……」

奈 美 「だつてそんなこと、今まで一度も」

のどか 「産めないって」

奈 美 「……え？」

のどか 「病気で……手術してて……それで、
子供が産めないって……言われてた」

奈 美 「……」

のどか 「でも……今になって、もしかしたら
って……なつて」

奈 美 「……」

のどか 「勝手だって分かってる。でも」

奈美 「そっか」

のどか 「……」

奈美 「(笑って) そういうことか」

のどか 「……」

奈美 「だから……私といたんだ」

のどか 「……え？」

奈美 「子供が産めないから」

のどか 「……ちがう」

奈美 「じゃあなんで黙ってたの？」

のどか 「……」

奈美 「なんで？」

のどか 「一緒にいらればそれで良いって……

……思ってたから」

奈美 「……」

のどか 「……だから、すぐどうこう決めたい

わけじゃないよ？ ただそういう可能性も

考えて、これから2人(で)」

奈美 「じゃあ選んでよ」

のどか 「……え？」

奈 美 「子供を作る人生か……私と一緒にいる人生か、選んでよ」

のどか 「……」

奈 美 「のどかが欲しいものはなに？ そんなに私といたいなら、私という人生だけを選んでよ」

のどか 「……」

奈 美 「私はそうやって生きてきた。私だけじゃない。みんな、みんなそうやって」

のどか 「人生って」

奈 美 「……」

のどか 「人生って……そうやって、ある中から選ぶものなの？」

奈 美 「……」

のどか 「もし……奈美を選ぶって言ったなら、このまま私といってくれる？ それで、ずっと一緒にいられる？」

奈 美 「……なんで？」

のどか 「一緒にいるって、そういうことじゃないと思う」

奈美「……」

のどか「私は……奈美と作りたい。選ぶんじゃない。作りたいの」

奈美「……」

のどか「これって、ワガママなのかな？」

奈美「……自分のことを家族に、ましてや

世間になんて言うつもりはない。この先もずっと。子供なんて考えたこともなかった」

のどか「……」

奈美「のどかは意地になってるだけだよ」

のどか「……」

奈美「いい子ぶってるだけ」

のどか「私は」

奈美「分かったようなこと言わないで！」

のどか「……」

奈美「私は……のどかとは違う」

のどか「……」

奈美「無理だったんだよ。私たち、最初か

ら

のどか「……」

○イベントホール・試合会場（数日後）

大きな声援が飛び交っている。

奈美と対戦相手、打ち合っている。

奈美、強烈なストレートを入れる。

フラつく相手、すでに意識が飛んでい
るが、

奈美「……ッ（押さえきれず）」

奈美、さらに強烈なフックを浴びせて。

頭から吹っ飛ぶ相手、ダウンする。

レフェリーがカウントを始める。

のどか、観客席に座っている。

奈美を見つめている。

のどか「……」

レフェリー「ナインツ……テンツ!!」

ゴングが鳴り、歓声上がる。

奈美、拳を上げて。

周囲の喜びに応えている。

のどか「（見つめ）……」

のどか、席を立つ。

熱気に溢れた会場の中。

ひとり出口へと歩いていく。

○スナック（夜）

「かんぱーい！」とグラスが上がる。

仲間から祝福の声をもらう奈美、笑顔でグラスを交わしている。

× × ×

カラオケを熱唱する会長や仲間たち。

奈美、手を叩いて笑っている。

○アパート・奈美の部屋（翌朝）

アラームが鳴っている。

奈美、目を覚ましのアラームを止める。

静寂に包まれて、

奈美「（ぼうつと）……」

○同・浴室（朝）

奈美、顔を洗っている。

鏡の中の自分を見つめて、

奈美「……」

着信が聞こえる。

○同・居間（朝）

奈美、咄嗟にスマホを手にすると、

奈美「（画面を見て）……」

奈美、電話に出ると、

母の声「なっちゃん？ 起きてた？」

奈美「……」

母の声「昨日はおめでとう。すっごく格好よ

かったよ。お母さん嬉しくてなかなか眠れ

なかった」

奈美「……」

母の声「体調は？ 大丈夫なの？」

奈美「……」

母の声「なっちゃん？ ……あつ、ちよつと

待ってね。お父さん！ なっちゃん」

父の声「（代わって）あー、もしもし？」

奈美「……」

父の声「もしもし？ 聞こえてるか？」

奈美「……」

父の声「奈美？」

奈美、泣いている。

その場に座り込んでしまう。

父の声「……どうした？」

奈美「ごめん」

奈美、涙が止まらない。

スマホを下ろそうとするが、

父の声「奈美」

奈美「……」

父の声「奈美、いいか？ よく聞け」

奈美「……」

父の声「胸を張って生きなさい」

奈美「……え？」

父の声「それだけでいい」

奈美「……」

○小野寺家・のどかの部屋（夜）

「ピコン」という効果音。

マッチングアプリがダウンロードされる。

のどか、アプリを開いて。
会員登録に進む。

Q あなたに当てはまるものは？

(男性) (女性) (その他)

のどか “女性” を選択する。

Q あなたのお相手は？

(男性) (女性) (その他)

のどか “男性” に指を伸ばすが、

のどか 「……」

迷いながらも “その他” を選択する。

『レズビアン』『バイセクシャル』『ト

ランスジェンダー』などの性的指向が

表示されている。

のどか 「(ぼうつと) ……」

のどか、アプリを閉じる。

クマのぬいぐるみを抱いて、

のどか 「……」

するとメールの受信音が鳴る。

のどか、スマホを見て、

のどか 「……」

○新宿・「ドン・キホーテ」・表（日替わり）

のどか、立っている。

行き交う通行人。

待ち合わせをする人々。

のどか、ふと空を見上げる。

太陽の光が降り注いでいる。

のどか「（見つめ）……………」

奈美「あの」

のどか、声の方向へ顔を向けると。

奈美が立っている。

奈美「小野寺さん、ですか？」

のどか「…………え」

奈美「……………」

のどか「そうです、けど」

奈美「…………（プツと笑って）」

のどか「（笑ってしまう）」

○新宿御苑・広場

のどか、ベンチに座っている。

芝生で遊ぶ親子がいる。

のどか「(見つめ) ……」

ドリンクを持った奈美、歩いてくる。

奈美「(のどかを見つめ) ……」

奈美、ベンチまで歩いて、

奈美「(ドリンクを) はい」

のどか「(笑って) ありがとう」

奈美、ベンチに座る。

のどか「気持ちいいね」

奈美「うん」

のどか「…でも、良かったの？」

奈美「なにが？」

のどか「こういう場所で…そういうこと話

すの、イヤなんじゃないかって」

奈美「…ああ、うん。大丈夫」

のどか「…」

奈美「それに家だと、やっぱりって。なっ

ちやいそうだから」

のどか「…」

奈美「ごめん、あれから色々考えて」

のどか「奈美を選ぶよ」

奈美「……え？」

のどか「私は……奈美を選ぶ」

奈美「……」

のどか「本当に勝手だったと思う。奈美が抱えてきたこと無視して、自分の気持ちばかり押し付けて」

奈美「……」

のどか「意地になってるって言われて、その通りだった。体が大丈夫かもってなってるって、ずっと悩んできたことだったから。そのことに固執し過ぎてた。だから」

奈美「欲しいんですけど？」

のどか「……」

奈美「欲しいものは、欲しいって言っているんだよ？」

のどか「……」

奈美「意地になったって、固執したって……だってしようがないじゃん、欲しいんだから。理由なんてないんだから」

のどか「……」

奈 美 「だから……のどかが、欲しいものは
欲しいって、胸を張って言える人と……一
緒になって欲しい」

のどか 「……」

奈 美 「私もね、考えたんだ。もしこの先、
上手くいって、のどかと子供と、3人で生
活してって……（笑って）ちょっとだけ、
想像できた。それでちよっとだけ、幸せな
気持ちになった」

のどか 「……」

奈 美 「でも、じゃあ実際にとって考えたら……
……自信ないってのもあるし、責任持つのが怖
いだけかもしれない。逃げてるって言われ
たら、そうなのかもしれないけど」

のどか 「……」

奈 美 「選ぶんじゃないかって作りたいて、言
ってくれたじゃん？」

のどか 「あれは……子供のことを言ったんじ
ゃないよ？ 私は」

奈 美 「分かってる」

のどか「……」

奈美「結果的にはアレだけど……でも、ちやんと作れたような気がする。(笑って)なんて、ちよっと大袈裟かな」

のどか「……」

奈美「ありがとう」

のどか「……」

○駅前

のどかと奈美、歩いている。

奈美、立ち止まって、

奈美「じゃあ」

のどか「……」

奈美「元気で」

のどか「……」

奈美、歩いていく。

のどか、その背中を見つめて、

のどか「……ッ」

追いかけてようとするが。

奈美、振り返ってのどかを見つめる。

のどか「……」

奈美、のどかに向かって何かを投げる。

のどか、慌ててキャッチすると。

『安産御守』と印されたお守りがある。

のどか「(奈美を見つめ)」

奈美「(笑顔で) それ……やっぱり返すわ！」

のどか「……」

奈美、歩いていく。

のどか、お守りを見つめて、

のどか「(思いを巡らせ)」

のどか、奈美に背を向けて。

涙をこらえて一步を踏みだす。

○道路

T「4年後」

車が渋滞している。

○車・車内

のどか、後部座席に座っている。

のどか「(電話で) ごめん渋滞してて……え？」

買い物？ お母さんそういうことは早く言
ってよ」

チャイルドシートには息子（2）、運転
席には夫（34）が座っている。

のどか、電話を切って、

のどか「（夫に）ごめん、どっかスーパー寄っ
てくれる？」

○スーパー「まるよし」・表へ駐車場

車が駐車場に進んで。

のどか、スーパーを見つめて、

のどか「……」

車が駐車される。

3人、車から降りる。

入口へ歩いていくと、

女性の声「奈美！」

のどか「……」

のどか、立ち止まる。

声の方向へ視線を向けると。

スーパーから出てきた女性（26）、

駆け寄る先には奈美が立っている。

買い物客で賑わう街中。

奈美とその女性。

手をつないで歩いていく。

のどか「……」

○タイトル「ありふれた恋」

○スーパー「まるよし」・表

息子「ママ？」

息子、のどかを見上げている。

のどか「……（笑って）」

のどか、その手を握る。

親子3人、歩いていく。

（完）